

マップの修正・改良点など

マップのスタイル

「最終版まち歩きマップ」はA3版とし、「表裏2分割タイプ」で作成する。
最終版まち歩きマップの表裏2分割しないタイプのマップの原稿は、必要に応じて、電子データで配布する（小南湖や丹羽長重廟までの範囲を含める）

わかりやすい案内

「みどころ」「おすすめ」はイラストで表示する。和菓子と白河だるまは細かい表現が必要なため写真とする。
小峰城の「二の丸売店」、「ボランティアガイド」についてのコメントが必要では？

店舗の掲載

“おもてなしの店”では「お休み処」の旗、店構えのイラストと店名を入れる。
こうした表示がいくらかでも商売に貢献すれば動機づけになり、参加店が増え、お店の“もてなし意識”の啓発につながることを期待する。但し、店名の表示は重要であることから慎重に行う。
掲載情報の量がかなり密になっており、「城下・街道・宿場の風情を感じる」というマップの主旨から、これ以上たくさんの店をいれない方がよい。
観光客にとって飲食や休憩の店は必要であるため、目印となるマークを入れる。今後、“おもてなしの店”に参加してくれるように働きかけていく。

記載情報の追加・修正など

歴史資源の紹介（中町）

- ・「元郵便局跡地にあった敷教第一舎」
- ・「白河信用金庫本店の敷地内にあった伊藤隆三郎邸跡」
- ・「小峰城大手門と芭蕉の関係」

バラ園の開園期間はその年の天候で変わることなどを付記する。
白河だるまについて、谷文晁（松平定信のお抱え絵師）を紹介するコメントが必要では？
白河駅前の人と文化の交流広場について、「コンピューニユ広場」を付記する。
大工町の名の由来となった常瑞寺の「太子堂」。
関川寺「結城桜」、会津町「立教館跡」、桜町「宗祇戻し跡」。
西側のまち歩きルートは天神町まで延伸させ、1.5時間を2時間コースとするなど、通り3町をおすすめのまち歩きルートとする。

見やすい表示

コメントの文字数を少し減らし、文字を大きくし、読みやすくする。
「みどころ」のマークは大きくし、見やすくする。
信号機をもっと見やすくする。また、一方通行の表示がまちなか歩きコースのように見えるので紛らわしい。
「市内の広い範囲を案内する地図」にはイラストはいれない。

これからの活用方法など

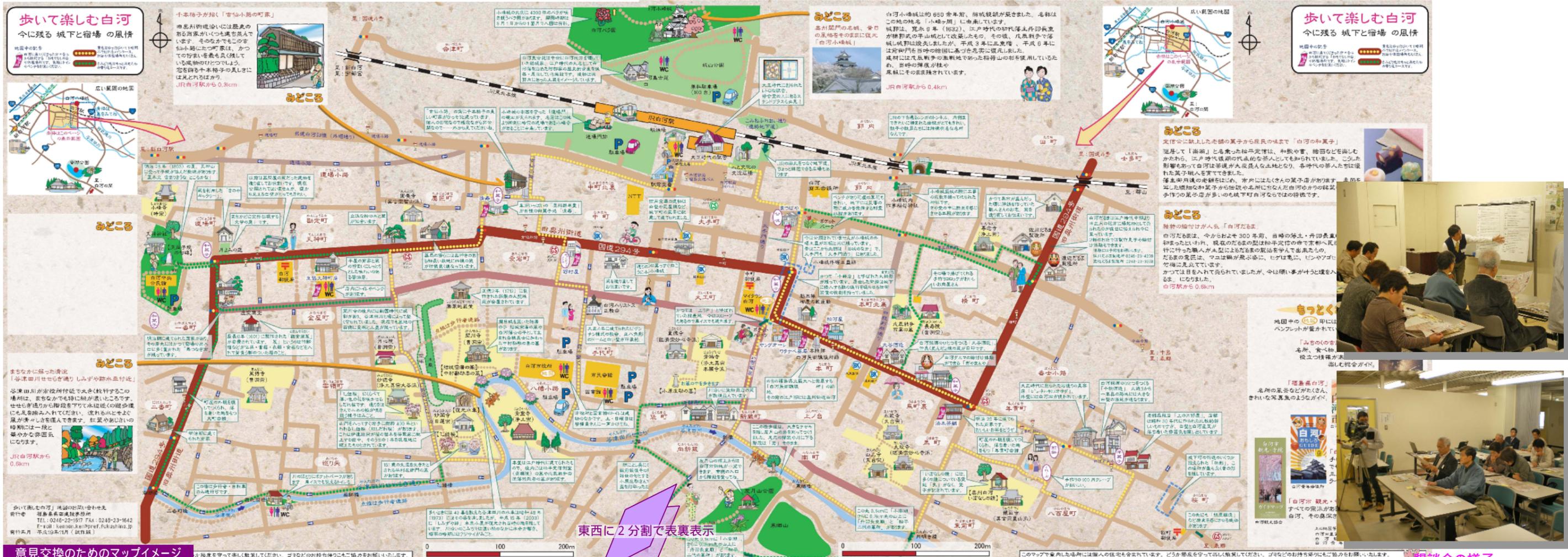
配布場所について

既存の観光パンフレットは、白河駅、新白河駅、マイタウン、市役所におかれているが、個別に希望があればどこにでもおくことは可能である。
「おもてなしの店」から始めて、今後は町内のたくさんの場所においていきたい。

おもてなしの店について

それぞれの店では、訪れた方に積極的に話しかけるなど、“おもてなしの心”を根づかせることが大切である。
和菓子とお茶のセットをお得感のある値段で提供するなど、各店が協力しながら、新しいサービスの提供を検討する。
このまち歩きマップづくりを契機にして、“おもてなしの店”が集まり、サービス向上作戦の話し合いをもつ。
さらに“おもてなしの店”への参加を呼びかけていく。
（「MDとみやま」、「玄豆屋」（月よみの庭）「大黒屋」、「玉屋」、「二番町の町家レストラン」など）

ほかにも多くの意見・要望をいただきました。



意見交換のためのマップイメージ

懇談会の様子